# ～自治会・施設・行政による地域の支えあい「はじめの一歩」～

神奈川県厚木市
社会福祉法人かながわ共同会厚木精華園
地域支援部長　今井　幸世
地域生活支援課長　河内　利浩

## １　はじめに

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は壊滅的・危機的な自然災害が存在することを目の当たりにした脅威的な事象でした。このことは、今まで積み重ねてきた社会福祉法人としての防災対策のあり方を根底から覆す経験でもありました。また、災害弱者である障害者が生き延びるための現実的な対策を喫緊に講じることが優先事項となりました。

厚木精華園は障害者支援施設（施設入所 110 名定員・生活介護 140 名定員）を軸足として、11 ヶ所（定員 48 名）のケアホーム、身体障害者を対象とした生活介護事業所（20 名定員）を事業展開しています。厚木精華園の立地は道路沿いの 120 メートルの範囲内には 3 つの障害者支援施設が存在しています。さらに、車で５分程に範囲を広げると厚木精華園のケアホーム 11 ヶ所だけでなく他法人のケアホームも複数存在している地域です。このような地域性を考慮すると万が一の場合には各々の施設単独での取り組みや各園職員の参集等では対応しきれないことや地域住民の皆様のご心配が容易にご理解いただけるかと思います。そこで頼りになるのは『遠くの職員より近くの隣人』地域の皆様のご理解とお力添えをいただく作戦を敢行することに決めました。

## ２　取り組み紹介

最初に、地域のなかで障害がある人もない人も一緒に楽しめるクラブ活動『お達者クラブ』を立ち上げ、地域の仲間に入れて頂くための土台作りに励みました。『お達者クラブ』の主な活動内容は「ドライブに行き隊」「散歩し隊」「バーベキューし隊」等々です。例えば７月に実施した『桃狩り』では、厚木精華園のホーム入居者３名と地域住民１０名、近隣他施設のホーム入居者１８名の参加で大いに盛り上がりました。次に第二段階、施設に足を運んでいただくことを目標としての作戦が 9 月 1 日に実施した地元自治会と行政と近隣施設等の共催の要援護者福祉避難所受入訓練『あつぎ防災訓練』です。

障害者支援施設には耐震構造の寝泊りいただく空間や備品、備蓄食料がありますが災害発生時に十分な人手を確保することが難しいのが現実です。一方で地域の皆様にあっては一般住宅の構造上の心配や備蓄食料、医療用品等の確保の心配、情報収集等の心配があるのではないでしょうか。そこで障害者支援施設を地域資源として活用する共助のあり方を模索しました。それが、万が一の災害時には障害者施設を地域住民の皆様の避難場所として衣食住及び医療を提供し、地域の皆様には（支援者としての活動が可能な方には）援護者としてボランティアを担っていただく『避難者＝援護者作戦』と東日本大震災時の要援護者の一般避難所での過ごしのあり方の課題提起を念頭に福祉避難所としての機能確保を企図した取り組み「あつぎ防災訓練～地域の支えあい・はじめの一歩～」です。

（１）準備～地元自治会、近隣施設、行政の共催と広報活動～

左記のポスターと趣意書を持参して、地元自治会、近隣施設、厚木市に説明と依頼に伺い、共催をいただきました。厚木地区施設連絡会の協力により厚木市内の福祉関係者が一同に集まる会議（市長との懇談会）で情報提供の場を用意してもらいました。情報を発信すること自体が活動の一環と考え、新聞各社等は訪問して説明させてもらい、エフエム相模では２週間にわたり放送してくれました。

共催団体打ち合わせの中での地元自治会の方からの「施設があることは知っているし、気にはなっているのだけれど敷居が高い気がして･･･。」とのお話から、炊き出しとして昼食を提供することや自治会集合場所までのマイクロの送迎、ゆるキャラで人気を博している「あゆコロちゃん」に来てもらうことなど、「はじめの一歩」を踏み出し易くすることを最優先としました。多くの方の参加を呼びかける一方で、高齢者、障害児者、妊産婦、病弱児者等のトリアージの方法と過ごしの場を検討・準備しました。

（２）実施～要援護者福祉避難所の開設･トリアージの実施と避難所機能の確認と炊き出し提供～

①要援護者福祉避難所の開設とトリアージ

配慮方法の異なる方のすみわけをどうするか･･･県や市、障害者協議会で作成している事前の様式を使用することも検討しましたが今回は簡単な受付表を準備し、自己申告あるいは支援者等の申告により、早急に医療行為が必要な人、車いすの方、知的障がいの方、環境調整が必要な方（自閉傾向の方）、静かな環境が必要な方（メンタルの方）に分けて避難場所を準備し、トリアージで左腕に障害特性ごとのすみわけに応じた色テープを張り、廊下に張り巡らした同色テープを辿ると避難場所に到着する誘導の仕掛けを作りました。

②避難場所機能の確認

各々の特性に応じた空間と設備についての確認作業と備蓄物品等を計画的に備える方向で確認し、今年度の予算の中で購入できる物品を準備しました。

また、有資格者による応急手当講習会、ＡＥＤ講習会を行い地域資源としての活用方法の一端をお示ししました。

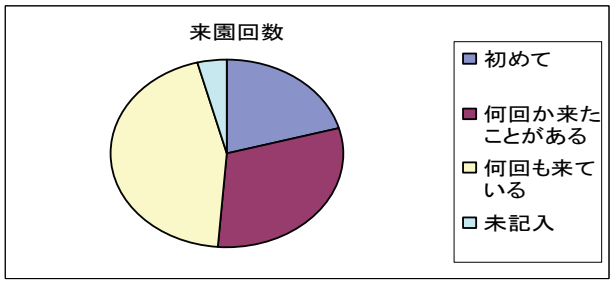
③炊き出しの提供

当初はグラウンドで炊き出しを実施することも検討しましたが、リスク等を勘案して、今回はカレーライスを厨房で調理し、盛り付けを地域の一般参加のボランティアにお願いしました。また、嚥下困難な方の非常食や、特別食の口どけ食と水分ゼリーの試食を実施し障害理解の促進を図りました。

（２）あつぎ防災訓練の成果

参加者は約２００名。アンケート集計は次のとおりです。

| | |
|---|---|
| 初めて | 29 |
| 何回か来たことがある | 44 |
| 何回も来ている | 63 |
| 未記入 | 6 |
| 合計 | 142 |




## ３　考察

厚木市内の複数施設の施設長や幹部職員が事前の打ち合わせや、当日も参加してくださり「地域連携のモデルとしよう」「次回の協働を指向しよう」「施設間連携を図る方向を考えよう」と呼応してくれています。また、厚木市は当日、副市長が参加くださり、防災協定の見直しを進めてくださっています。地元自治会連合の役員の方々からは次年度に向けての協働を申し出ていただきました。今回の目的「地域での支えあい・はじめの一歩」は踏み出すことができたかと感じています。この一歩が地域で障害がある人もない人も支えあいながら共生できる地域生活支援の第一歩になるように事業展開したいと思います。

## ４　おわりに

はじめの一歩は踏み出せましたが、本番はこれからです。障害者が普通に地域で生活できる社会を目指して、次の一歩を踏み出します。